

# Hospital report ②

医療法人社団欣助会  
**吉祥寺病院**  
(東京都調布市)

## 「医療の質向上」を軸に病院改革 日本一の専門病院をめざす



塚本一院長



リハビリテーションセンター。患者が普段いる病棟から一歩外に出た敷地内にあるところがポイント



やりがいプロジェクトCチームによる、職員向けの昼食イベントの様子

医療法人社団欣助会吉祥寺病院(塚本一理事長・院長、345床)。創設当初から統合失調症の社会復帰支援と、患者家族の支援力を入れてきた。1999年に就任した塚本院長のもとで、統合失調症の専門病院として日本一をめざし、病院改革を次々と実践している。近年は、病院職員が主体となる「やりがいプロジェクト」を立ち上げ、病院全体で経営体の強化を図る。

### 専門性強化の要は 社会復帰支援と家族サポート

北多摩南部医療圏の北端、J R三鷹駅と調布駅の中間に位置する吉祥寺病院は1954年に開設し、統合失調症の患者を中心に診てきた。塚本一院長は99年に就任した。

塚本院長の父にあたる、塚本金助・初代院長の「精神科病院の役割は障害を持ちながら暮らす患者さんを支えることだ」という考えのもと、64年に社会復帰センターを開設。当時は隔離・収容が当たり前だった統合失調症患者の社会復帰を支援してきた。

99年からは、それまで5人体制だった作業療法士を11人に増員。その後、敷地内にリハビリテーションセンターを新設し、社会復帰支援体制を強化した。

社会復帰支援プログラムのなかでも特徴的なのが、生活技能訓練を担当する「チャレンジグループ」。社会復帰に不安を感じることの多い長期入院患者を対象に、退院後の生活をイメージできる内容の訓練を提供。金銭の出納管理、ゴミの捨て方といった生活訓練のほか、以前入院していた患者による自立後の生活を語る講演会も行われている。また、近隣の作業所やグループホームなどに赴き、そこでの活動に参加したりもする。こうした訓練をきっかけに、30年間入院していた患者が退院できた例もあるという。

患者の家族に対する支援も患者の社会復帰に必要な役割の1つだ。「統合失調症は、患者さんに対するご家族の対応によって再発率が大きく異なるという特徴があります。ご家族が過干渉だったり放任しすぎたりすることで再発率は上昇します。しかし、患者に向き合う家族の負担は想像以上に大きいものです。当院ではそうしたご家族の立場を理解し、支えることを重視してきました」

65年には「家族会」が発足。月に1度行われる例会では、家族と病

院職員との懇談や、病院職員が講師を務める学習の場を提供してきた。2003年度からは患者やその家族のほか、一般市民にも公開した「家族教室」を年3回開催し、統合失調症の治療の最前線や、社会資源の活用などについて啓発活動も行う。また、同年から、家族の心のケアを行う「ファミリーサポートセミナー」も月に1度開催している。

病気が長期化し、数多くの病院を受診した経験のある患者の家族からは、「ここまで家族に向き合ってくれた病院は初めて」と言われることもある。患者家族のネットワークで評判が広がり、「吉祥寺病院で診てもらいたい」と来院する患者も少なくないという。

塚本院長の就任後は、常勤医師の増員や病院の改築、医療機能評価の受審などにも取り組み、医療の質の向上を図ってきた。

### トップダウンから 全員参加型の取り組みへ

統合失調症患者は全国的に減少傾向にあるなかで、「患者数が増加している認知症やうつ病に専門特化する病院もあるが、周りと同じ

ことをやっていても意味がない」と話す塚本院長。統合失調症にこだわり、早期退院を推し進めるスタイルを貫く。これまでは院長自ら率先し、トップダウン方式で「医療の質の向上」に取り組んできたが、これからは全員参加型の取り組みにしていきたいと、09年からは病院の多職種が

主体となって活動する「やりがいプロジェクト」を打ち出した。構成メンバーは部課長クラスの職員。病病・病診連携などの対外的な活動を行うAチーム、夜間の患者受け入れ体制づくりなど、院内のシステムづくりを手がけるBチーム、プロジェクトの全景を把握し院内に周知する役割のCチーム

の3つがある。各チームであげた企画を実行する際には、下部組織として、現場の職員中心に「実行委員会」を構成する。まさに「全員参加」で行う取り組みだ。プロジェクトは、①地域の連携先の医療機関とつて安心して任せられる、②患者にとって安心してかかれる、③病院職員がやりがいをもって働き続けられる——病院になることを目的とする。これを実現するための具体的な目標として、①病床利用率を93%から98%に、②年間入院患者数を600人から800人に、③入院患者の8割を統合失調症患者とする——の3つを掲げ、5カ年計画で取り組んでいる。職員が主体となり、やりがいを感じながら継続的に「医療の質向上」が図れる仕組みを整えた。②の年間入院患者数は年々増加し、12年には745人と、計画に1年を残して、目標達成まであと55人に迫っている。

「今後はプロジェクトチームの働きを活かして、より地域連携に力を入れるほか、当院自らも地域に出て行き、在宅患者のサポートを強化していきたい」と塚本院長は力を込める。

東京都調布市深大寺北町 4-17-1  
TEL: 042-482-9151  
URL: <http://www.kichijoji-hospital.com/index.html>  
診療科目: 精神科  
病床数: 345床

